

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成 21 年 2 月 26 日 (2009.2.26)

【公開番号】特開 2007-209067 (P2007-209067A)
 【公開日】平成 19 年 8 月 16 日 (2007.8.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-031
 【出願番号】特願 2006-22181 (P2006-22181)
 【国際特許分類】

H 0 2 G 3/02 (2006.01)

【F I】

H 0 2 G 3/02 3 0 1 D

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 1 月 9 日 (2009.1.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

定形で矩形状のタイルが縦横に並んで取付けられるタイル下地面に直接固着される基台と、

この基台の前面を覆うとともに基台に固着される取付け台と、この取付け台に固定される電気機器とを具え、

前記基台は、タイル下地面から延出して電気機器に接続される導線を挿通するとともに、導線の通過位置を調整しうる充分な大きさに形成された配線開口を有することを特徴とするタイル仕上面の電気機器取付構造。

【請求項 2】

前記基台は、タイル下地に向く背面の周縁部とタイル下地との間に第 1 の水密材を介装することを特徴とする請求項 1 記載のタイル仕上面の電気機器取付構造。

【請求項 3】

前記取付け台は、基台とその周囲に配されたタイルとの間の隙間を隠す大きさで形成されることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のタイル仕上面の電気機器取付構造。

【請求項 4】

前記基台は、上下の寸法が前記タイルの上下寸法の整数倍の大きさである請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載のタイル仕上面の電気機器取付構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

前記目的を達成するために、請求項 1 に係る発明では、定形で矩形状のタイルが縦横に並んで取付けられるタイル下地面に直接固着される基台と、この基台の前面を覆うとともに基台に固着される取付け台と、この取付け台に固定される電気機器とを具え、前記基台は、タイル下地面から延出して電気機器に接続される導線を挿通するとともに、導線の通過位置を調整しうる充分な大きさに形成された配線開口を有することを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0009
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0009】

請求項2に係る発明では、前記基台は、タイル下地に向く背面の周縁部とタイル下地との間に第1の水密材を介装し、また請求項3に係る発明においては、前記取付け台は、基台とその周囲に配されたタイルとの間の隙間を隠す大きさで形成されることを特徴とする。

【手続補正4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0010
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0010】

請求項4に係る発明では、前記基台は、上下の寸法が前記タイルの上下寸法の整数倍の大きさであることを特徴とする。

【手続補正5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0011
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0011】

請求項1に係る発明においては、基台は導線の通過位置を調整しうる十分な大きさの配線開口を有することから、少なくとも上下方向に関しては、基台の取付け位置をタイルの目地間に配置することができる。そのため、仕上がりの見栄えを向上できるとともに、施工性に優れる。

【手続補正6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0013
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0013】

請求項2に係る発明のように、基台のタイル下地に向く背面の周縁部とタイル下地との間に第1の水密材を介装すると、雨水が壁内部へ浸入することを防止できる。

【手続補正7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0014
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0014】

請求項3に係る発明のように、前記取付け台は、基台とその周囲に配されたタイルとの間の隙間を隠す大きさで形成されることにより、外観を向上できるとともに、その隙間に雨水が直接降りかかることを防止するため、雨水が壁内部への浸入を阻止できる。

【手続補正8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0015
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0015】

請求項４に係る発明のように、前記基台は、上下の寸法が前記タイルの上下寸法の整数倍の大きさで形成されたときには、タイルを上下方向の中間で切断して、割り付ける必要が無く、仕上りの見栄えを向上できるとともに、施工性に優れる。

【手続補正９】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２１】

本実施形態において、この基台４は、その上下の外形寸法ＬＶ１が前記タイル２の上下寸法の整数倍の大きさに形成される。例えば本形態では、二丁掛のタイル２（２２７×６０ｍｍ）が使用されるため、その上下寸法（６０ｍｍ）の２倍である１２０ｍｍの大きさに形成される。勿論、１倍の６０ｍｍ、或いは３倍の１８０ｍｍの基台４を用いることもできる。他方図２、３に示すように、本形態の基台４は、前記タイル２の厚さと略同厚さに形成される。

【手続補正１０】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２２】

また前記薄箱体２５の基板部２１の中央には、縦長の配線開口８が形成される。この配線開口８は、タイル２の割付けに合わせて基台４を配置する時、タイル下地面３から延出する導線７が無理なく挿通できる大きさに形成され、上下方向の寸法ＬＶ２が、例えば３０～１２０ｍｍ程度、好ましくは５０～１００ｍｍ、本形態では７５ｍｍとし、横方向の寸法ＬＨは、例えば２０～１００ｍｍ程度、好ましくは３５～７５ｍｍ、本形態では５０ｍｍとしている。さらに前記配線開口８の周縁には、後側に向けて段落ちした環状受部２８が形成される。

【手続補正１１】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２５】

前記取付け台５は、図１、２に示すように、略厚板状をなすとともに壁面方向において基台４よりも一回り大きく形成され、前面の略中央に電気機器６を取付ける支持部３２を突設するとともに、四隅に取付け孔３３が形成される。そして、取付け孔３３に挿通されるビスなどの固着具３４を、前記基台４の螺孔２９に螺入することにより取付け台５を固着する。このとき、基台４よりも一回り大きく形成された取付け台５が、基台４を覆うことにより基台４とタイル２の間の隙間が隠れるため、外観を向上できるとともに、その隙間に雨水が直接降りかかることを防止するため、雨水が壁内部への浸入を阻止できる。